

一緒に俳句でことば遊び

はなうたあそび

Vol.35

今月の一句

アイドルの口小さくて苺かな

松山といえば「俳句」。
「一度足を踏み入れると、その奥深さにハマる人続出なんです。
旬の花や植物に目をとめ、どんなシーンを詠もうかと
アレコレ考えるのも楽しいもの。松山出身の俳人・神野紗希さんと一緒に、
自由気ままに詠んでみませんか？」



今月の花 【 苺 いちご 】

バラ科の多年草。食用として供されている部分は花托（花床ともいう）であり果実ではない。イチゴにとっての果実は一見して種子に見える一粒一粒であり、正確には瘦果という。

この句のモデルは、アイドルグループ・私立恵比寿中学の廣田あいかちゃんです。NHK Eテレの俳句番組「俳句さく咲く」のロケで、一緒に千葉の苺農園へ行ったときに作りました。あたたかいビニールハウスの中で、おいしそうなたらを探るあいかちゃん。当時は中学三年生、ツインテールとハスキーボイスがかわいらしくて、俳句も一生懸命作ってくれて、こんな娘がいたらさぞ人生楽しいだろうなあと、遠い目をして見つめたことでした。もちろん顔も小さいんですけど、口がまたお雛さまのようにちっちゃいのです。その口に入りきらないくらい大きく育った苺を、ぱくつと嬉しそうにはおぼる彼女は、まさにアイドルでした。野口理さんという俳人に「アイドルに林檎を齧る仕事かな」という句がありますが、もちろん、苺を齧るというのも、アイドルにとってはお仕事なわけですから、私のお仕事は、それを俳句に詠むこと、です。

俳人プロフィール 神野 紗希 こうの さき

1983年松山市生まれ。NHK Eテレ「俳句さく咲く」選者。お茶の水女子大学大学院に在籍し、近現代俳句を研究している。2010年までNHK-BS「俳句王国」の司会を担当、2011年には俳句WEBマガジン「spica」を立ち上げるなど幅広く活動中。最新句集は「光まみれの蜂」（角川書店）。



読者の皆さんの投句

金

今恋は中級編なりいちご狩る みーこ



なんと、初級編はもう卒業して、すでに中級編とは……。ドラマを第四話あたりから見始めた気分、展開が読めなくてそわそわします。初級編なら観覧車に乗ったり映画を観たりするのかな。苺狩りは、言われてみればたしかに中級編です。どのくらいおしゃべりしていけばいいの、苺をどのくらい食べるのが好ましいのか、正解が分かりにくいから。さあ、ここから上級編へとコマを進められるのか。頑張れ！と応援したくなる一句です。

白地に赤いちご畑の幟かな きくこ



「あるある俳句」たしかに、苺畑の宣伝の幟は、白地に赤いちごの農園などと書かれています。いいですね、この淡白さ。人生の懐懐とは無縁の、軽やかさに惹かれます。

苺狩り食べてないよと赤い舌 うみこ



いやいや、食べるとるやろー舌、苺色に染まってるやん！……と、読者にツッコませてくれる、サレっ精神旺盛な句。「赤い舌」という具象物を出して、すっきりとめします。

苺にミルク焼き肉にタレ雲に空 瀬戸薫



今回いちばんぶっ飛んだ句でした。苺ときて焼き肉かい！でもその健康ぶりにふと子規さんを書いて好ましくなったりして、下五は「空に雲」のほうが良いのでは。

新しき器の中で苺かな ちーちゃん



新しい器に盛りつけた苺は、いつもにもまして輝いて見えます。どんな器か分るとさうにイメージ豊かな句に。たとえば「新しき砥部焼に盛る苺かな」。硝子器でもきれいですね。

苺ジャム制服のすそ地図になる でんでん



制服に、苺ジャムをこぼしちゃったんですね。その赤いしみを地図のようだと捉えた発想が素敵です。ちょうど、地理の授業のことを考えていたのかも。ガリィでポップな句。

朝摘みの苺産直販売す ISEKI 松田



さっぱりと素直に表現されていて、良い句ですね！摘みだばかりの苺のみずみずしさがありありと見えます。朝摘みの産直苺販売すると、よりリズムが良くなるかも。

銀

髪留めは深紅苺を食べる君 青島倦怠期



僕は君のことを、髪留めが気になるほどに見つめているのに、君は、苺に夢中。恋のはじめの、一方通行の感じ、どきどきするな。髪留めの色に深紅を染めた君だから、きくと情熱的な人。そんな君に恋したら、きくと大変なんだけど、視線は自然と君を追ってしまう。苺の赤が、アダムとイブの食べた禁断の果実のように、魅惑的に輝きます。

銅

誉められし今日の嬉しさ苺買う あねもね



大人になると、褒められる機会が減るので、たまに「頑張ってるね」なんて声をかけてもらって、嬉しくなってしまう。誰かが自分をみてくれたという喜びに、普段は買わないで我慢する苺を買ったのでしよう。そんな嬉しさが折々訪れてくれたら、人生も捨てたもんじゃないと思えそうです。

苺畑父いた景色目に浮かび すもも



光をたぎすぎた映画のフリンジみたい。一緒に苺を採った記憶のなかな。もういない父のことを、明らかに苺畑で思い出している作者の心と、胸がしめつけられるようです。

あなたの詠んだ句を、ズバリ！
神野さんが斬ってくれます。
(もちろん褒めてくれることも！)

●来月のお題を季語に、5・7・5で俳句を読み、編集部まで「しじ」に応募ください。
※多数いただいた場合は編集部で選抜させていただきます。

来月のお題

「カーネーション」
4月30日必着

再来月のお題
「夕顔 ゆうが」
5月29日必着

メールで投稿!
haiku@tj-matsuyama.com
件名:はなうたあそび
本文:句・作者名
ハガキで投稿!
本誌巻末についているハガキに必要事項を記入しポストに投函してください。